

薬草だより

橋本竹二郎の植物画紹介

その6

樋口 剛央*

ケイ (シナニッケイ) (クスノキ科)

Cinnamomum cassia (Lauraceae)

生薬名：桂皮 (ケイヒ)

花期は5～7月。樹皮又は周皮の一部を除いたものを薬用部位とする。桂皮類は古代エジプトの古文書やギリシア本草にも記載が確認されており、正倉院種々薬帳には桂心の名が見られる。香辛料のシナモンとして主に食用にされる同属植物もある。現在でも漢方の要薬であり、解熱、鎮痛、循環改善、健胃作用などが認められている。安中散、黄耆建中湯、葛根湯、桂枝湯、桂枝茯苓丸、十全大補湯、桃核承気湯、八味地黄丸、麻黄湯、薏苡仁湯、苓桂朮甘湯等、非常に多くの処方配合される。



コガネバナ (シソ科)

Scutellaria baicalensis (Labiatae)

生薬名：黄芩 (オウゴン)

花期は7～8月。周皮を除いた根を薬用部位とする。心下部の痞えを主治し、清熱薬に分類され、現代薬理学では解熱、消炎、抗アレルギー、血圧降下、利尿、利胆、抗菌等様々な作用を有するとされる。漢方の要薬であり、黄芩湯、三物黄芩湯、乙字湯、黄連解毒湯、柴胡桂枝湯、小柴胡湯、大柴胡湯、三黄瀉心湯、半夏瀉心湯、防風通聖散、竜胆瀉肝湯等に配合される。



ゲンノショウコ (フウロソウ科)

Geranium thunbergii (Geraniaceae)

花期は7～10月。地上部を薬用部位とする。日本の民間薬であり、古くより止瀉薬、整腸薬として利用されてきた。また、伝承薬の百草丸、陀羅尼助丸に配合される。非常によく効くことから「現の証拠」と名付けられたとされ、また、秋に果実を飛ばした後の姿が神輿に似ていることからミコシグサの別名もある。中国では老鸛草 (鸛：コウノトリ) の名で同属植物の全草が用いられている。



橋本竹二郎

松浦薬業株式会社顧問

来歴

1931年東京に生まれる。

牧野富太郎氏らと親交。津村研究所 (現ツムラ)、名城大学薬学部、富山大学和漢薬研究所のほか、複数の製薬会社の顧問等を経て、現在に至る。

主な著書

「立山路の花しるべ」(共著、巧玄出版、1977)、「北陸の自然誌」(里見信生 編著、巧玄出版、1979)、「目で見える薬草百科-見分け方・採取時期・薬効と使い方」(永岡書店、1984)、「薬草・花を描く-ハーブドローイング植物画を楽しもう」(日貿出版社、1994) ほか